白馬三山・旭岳山行　　2018.8.2～4　単独行

　目的は日本百高山（地）でもある旭岳（2867M）の登頂とミヤマアケボノソウとの再会。

大雪渓を登って白馬頂上宿舎泊で白馬鑓温泉経由で猿倉へ下山は過去２回いずれも１泊で回ったが高齢になったので今回は２泊で予定した。8/1 の天候が不安定で日程・計画は三転四転してそのたびに登山届を書き直す羽目になった。それに白馬鑓温泉小屋の混雑も重なりである。8/1 から（8/1 は小雨予報であったがネットで白馬鑓温泉の込み具合を検索したら空いていたので）当初案からは逆の白馬鑓温泉（泊）～白馬山荘（泊）にしようと白馬館へ予約を前夜したら混むと言われたので辞めた。8/2 朝又ネットで混雑を検索したら空きが出たので（キャンセルが出たため？）白馬館へ予約の電話を入れたら満員と言われる、今ネットでは空きがあったと言ったら調べると言って結果はＯＫになった。予約の電話を一手に受ける係としてはご粗末だと感じた。（このご粗末が最後まで尾を引いた。白馬山荘では空き部屋がいくつもあるのに詰め込んだり、帰路白馬尻小屋で缶ビールを買ったら全く温く今までで最悪のビールだった。補則すれば白馬館のＨＰは今まさに夏山登山のピークだと言うのに未だに「ルート案内」と「Ｑ＆Ａ」欄は「準備中」である。全くご粗末な、利用者無視の経営体質である。日本一の収容力を誇る白馬山荘やキレット小屋・五竜山荘・白馬鑓温泉小屋・白馬大池山荘・白馬尻小屋・栂池ヒュッテ等を経営するおご

りが根にあるようだ。ちなみに 8/1 の白馬鑓温泉小屋は空いていたとの事、あの電話応対が無ければ 8/1 からにしたのだが、降雨も無かったとの事。）

嫌な思い出したくない前置きになってしまった。なお猿倉のＰが混雑すると思い八方からバス利用とした。

8/2（木、快晴）自宅 5：30～6：10　白馬第五駐車場～八方バスターミナル　6：40～（バス）7：02　猿倉　7：10～12：20　白馬鑓温泉小屋（2100M、泊）

8/3（金、強風曇りのち晴れ）5：40～7：35　大出原　7：45～8：25　稜線分岐（強風のため様子見）9：05～9：35　白馬鑓ヶ岳（2903M）9：40～10：35　杓子岳分岐　10：40～12：50　白馬山荘（泊、白馬岳往復する）

8/4（土、快晴）5：45～6：15　旭岳入り口～6：40　旭岳　7：25～7：45　登山道へ　7：50～8：25　白馬岳頂上宿舎　8：40～9：20　避難小屋　9：35～10：10　雪渓入り口、アイゼン装着　10：20～11：05　雪渓終了、アイゼン脱ぐ　11：20～11：30　白馬尻小屋　11：50～12：35　猿倉　12：45 頃　タクシー～13：00　八方Ｐ　13：15～（入浴）～14：45　帰宅。

←八方第五駐車場から白馬三山

8/2　猿倉で登山届提出し何時もは降った登山道を初めて鑓温泉目指して登るが今日も朝から暑い。ユックリの行程なので花を見たり撮影したりでノンビリ歩く。

シロウマアサツキ

シロウマタンポポとミヤマキンポウゲ

残雪多し

白馬鑓温泉小屋に近ずく

鑓温泉下で前回ウルップソウを見たので探したが見つからなかった。白馬鑓温泉に泊まるのは今回初めてである。天狗山荘が休業中、鑓温泉小屋も工事中で収容力が少ないので今年は混雑している。

２度名物の露天風呂に入るが熱いのでユックリ長湯が出来ない。水は豊富な所なので水で温泉の温度を下げてくれれば良いのだがそんなサービス精神は無いようだ。寝床は狭くて両隣の人の手が時々当たる。

8/3　天気が予報より悪く風も吹いている。稜線まで標高差 800M近くあるので、水は途中の沢で補給するようにして 500ＣＣ１本で出発する。今日もコースタイムは 6：15 なのでユックリ花や景色を眺めながら登る。途中から風が強くなってくるし、展望も悪くなってくる。稜線に出るが物凄い強風である。何グループかはその中を歩いて行ったが私は大事を取って風の弱い所で様子見とする。ツアー登山の一行が上がって来た。ガイドは雨具完全装着を指示した。顔ぶれを見ると結構高齢者が多く登山経験も浅い感じの人が多い。時々晴れ間も出るし、ツアーよりは先に出たいので私も歩き始める事にする。風も少しずつ弱くなってきた。

鑓ヶ岳山頂

ミヤマアケボノソウ発見！

白馬鑓ヶ岳山頂は展望無、杓子岳が近ずいてようやく展望も効くようになる。ウルップソウは全て咲き終わり。杓子沢のコル近辺にミヤマアケボノソウが咲いているとのネット情報があったので注意していたら咲いていた。しかも周りを見たらアチコチに点在しているし、その先数百M区間で点在していた。

感激！今回の山行の目的の一つが実現したのだ。２０１３年 8/7～9 に八方尾根～唐松岳頂上山荘（泊）～不帰のキレット～白馬岳頂上宿舎（泊）～白馬大池～栂池と新潟のオバサン達と歩いた時に白馬頂上宿舎の手前で花に詳しいＳさんが見つけて教えてくれた花だ。彼女もその時に見るのは３回目だと言う希少な花との事だった。特に目立ったり、綺麗だったりの花ではないが、紫色の似合う独特の雰囲気ある花である。その後三俣山荘～黒部五郎小舎間で矢張り花に詳しいＦさんが見つけてくれた。今回で３回目である。杓子岳山頂は省略して前回ミヤマアケボノソウを見た場所を探すが見あたら無かった。それにしても白馬三山付近は高山植物が豊富で規模も大きい、人気の理由が分る。

杓子岳・鑓ヶ岳を振り返る

白馬岳と白馬山荘

←白馬岳山頂

何時もは村営に泊まるのだが今回は日本一の収容力で名高い白馬山荘に予約した。チェックインして軽身で白馬岳を往復する。その後レストランで明日登る旭岳を眺めながら飲む。正規な登山道がないので踏み後らしい所を探しながら。

登山者の姿は全く見られなかった。部屋へ戻って１６時頃一つおきの寝床に何と隣に割り当てられた人が来る。何故この大きな部屋で此処だけ３人並びになるのか？（私が難聴者だと感じてうるさくても聞こえないだろうと詰め込んだのなら大問題だ）又全く泊り客のいない部屋がいくつもあるのにこんなに詰め込むのか？頭にきて受付へ文句を言いに行く。検討するとの事で夕食後 17：10 頃受付へ寄ったら全く泊り客のいない部屋に割り当てられた。何でそんなに詰め込むのか？と言ったら「これから到着する人がいるとの事」だがそんなに遅い時間に大部屋がいくつも空いているのに来るはずが無い。応対したのは何と天下の白馬山荘の支配人である。商業主義に徹した気配の白馬山荘には泊まりたくなかったのだが矢張り失敗した。部屋は大部屋に私一人だけ、隔離部屋に入れられたようだ。遅くにもう一人来た、矢張り詰め込まれて嫌で変更になったとの事。朝起きたらもう２人寝ていた。翌朝のトイレは予備の紙が置いてなくて隣に移ったが、予備の紙の点検もしないグウタラ経営である。なおドコモはとうとう圏外であった。

8/4　今日は天気が良い。清水岳・祖母谷方面に下って、雪渓を越えて昨日眺めた踏み後らしきところへ行くが入り口に何の表示も無い。昔祖母谷温泉へ下った時にはペンキマークがあったし、ネットで検索した時もその旨書かれている。少し先まで偵察に行ってみるが幾つか踏み後らしい所があったが戻って一番ハッキリする最初の場所から登る事にする。ずるずる滑りやすい道が続くが

踏み後はシッカリついている。山頂手前で一人下って来た。途中にザックを置いてきた人である。下山はハイマツの中を歩くと言っている。

旭岳

旭岳山頂

←旭岳山頂から右毛勝三山、左剱岳・立山、清水尾根ルートを見下ろす

山頂からは３６０度の大展望！一回りしたが予想以上に花が少なかったので展望に徹する事にする。雪倉岳～日本海～朝日岳～僧ヶ岳・越中駒ヶ岳～毛勝三山～剱岳～立山～鹿島槍ヶ岳等々素晴らしい眺望である。眼下には清水尾根・餓鬼山ルートも見える、懐かしい。下山は途中で道を間違えたが薄い踏み後が続くのでそのまま下る。ハイマツや大石が多いがズルズル滑る往路よりは安全である。道へは古い木製の杭がある所で清水尾根への登山道へ出た。視察時に此処も踏み後があるなと思った箇所

である。それにしても一人しか合わないマイナーなルートであるが、日本百高山で近年のブームもあり、シッカリ表示を出して一本に絞った方が環境には良いのではと感じた。昨日グリーンパトロールの人に聞いたテント場へ行って見る、まだ花を少し残しているウルップソウが幾つかあった。ミソガワソウや独特に綺麗な色をしたトリカブト等が多いお花畑を楽しみながら下山する。前から感じていた事だがストックのゴムキャップ装着の推奨が長野県は全く弱かった。北海道はかなり前からうるさかったし、昨年登った飯豊山ではストックのゴムキャップ装着の注意書きがアチコチに掲示されていた。今回長野県下で初めて白馬岳の登山道で何箇所かに掲示があるのを発見した。ようやくと感じた。今日は登って来る人が多いと予想するので登山道が混雑するので途中から花見は辞めて急ぐ。矢張り大雪渓上部の夏道から渋滞が始まる。要領の悪い臨機応変で無い登山者が渋滞に輪をかける。中には待っているのにカメラで写真を撮っているヤカラもいる。大雪渓からは軽アイゼンを装着して下る。

←白馬大雪渓

登ってくる人が隊列を作って続いている。その横を下るので渋滞にはならないが、歩きずらい事はある。アイゼンを脱ぐ箇所以降は時間的にも登って来る人は少なくなった。白馬尻小屋で缶ビールを買うが全く冷え

てない。ビールの冷えて無い物ほどまずい物は無い。同じ水で冷している、針ノ木小屋や船窪小屋のは結構冷たかったが。ましてや水の豊富な小屋なのだから水を垂れ流しにすれば良いだけである。「今まで小屋で飲んだ中で一番冷えて無いビールでまずい」と一言言ったが反応は全く無。白馬館グループの接客には、とりあえずの「すみません、ご迷惑をおかけします、申し訳ありませんなど」「お客の立場になって良い方法を考える」等の用語やサービス精神はないようだ。こんなグウタラな企業が天下の国際観光地である白馬村に存在する事自体が不名誉である。目的はほぼ達成した山行であったが、気分の悪い後味の悪い山行でもあった。

赤沼　健治